都留は第二のふるさと

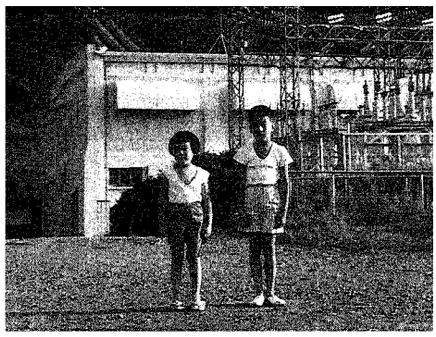
～ツルと私の不思議な縁～

都留文科大学助教授　鶴田清司

早いもので都留文科大学に赴任して五年目を迎えました。二十代で専任講師という重要なポストを与えられ、試行錯誤・悪戦苦闘しながらも何とかここまでやってくることができました。今ふり返ってみると、それも都留だからこそ可能だったのではないかという気がしています。

というのも、ここ都留は私の第二のふるさとだからです。母親の実家が下谷にあって、小さい頃からよく遊びに来ていました。夏休みなどは、暗くなるまで水神さんや深田発電所のあたりを走りまわったものです。（写真は昭和三十八年夏、七歳当時のものです。）また、道沿いに聞こえた撚糸工場や織物工場の音も今でもしっかりと耳に残っています。古い話になりますが、大相撲の富士錦が優勝したときの祝賀パレードを上原洋品店のまえで見物したこともはっきりと覚えています。都留に関係のあったのは、母親だけではありません。

父親の方も小学校の教員として、東桂小や禾生第一小に何年か勤務しました。その関係で、東桂小では宿直室に泊まったこともあります。昭和四十年頃のことでしょうか。また、父は禾生第一小では教頭として勤務したのですが、当時文大の学長だった大田堯先生を研究会に招いて講演を聞き、そのおりに車で大月まで送迎したこともあったそうです。ともかく都留では、いろいろな人にお世話になったと聞いています。



こんなわけで、都留文科大学に就職が決まったときには、不思議な縁を感じずにはいられませんでした。

おまけに私の名前もツルダなのです。おかげで自己紹介をするときに、「ツル文科大学のツル田です。とても覚えやすい名前なのでよろしくお願いします！」などとシャレを言うことができます。これはなかなか宣伝効果があります。ふつうの人よりは有利です。

同時に、これは市や大学のＰＲにもなるのではないかとひそかに自負しています。このあいだもコンピューター会社より荷物が届いたのですが、なんと「トドメシタハラ　トドメブンカダイガク」などというけしからぬ宛名になっていました。（とどめを刺されてはかないません。）まだまだツルという名は県外の人々には知られていないんだなと痛感しました。

これからツルの名を全国にもっと広めていくためにも、微力ながら教育・研究に頑張っていきたいと思っています。

（勝沼町在住、専攻は国語教育学）

「桂川祭開催のお知らせ」

第34回桂川祭実行委員会

今年も来る十一月二日より四日間、都留文科大学において第三十四回桂川祭が開催されます。今回はテーマを「前代未聞」として、これまで無かった試み―屋外への冒険―を実現させようと私たち実行委員会も目下奮闘中です。ゲートをたてる、テントを使用して模擬店を屋外でも催す、空の下での学内バンド演奏といった企画が新たに盛られています。

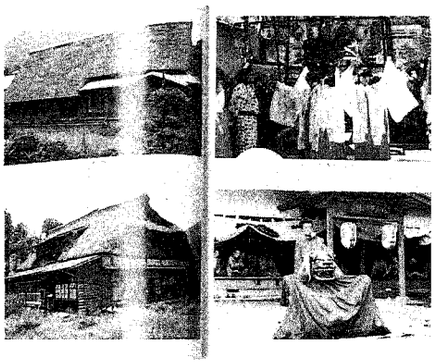
お気軽に足をお運びください。お待ちしています。

都留市史資料編「民家・民俗」発刊

都留市史資料編の第三回配本として「民家・民俗」が発刊となりました。

本巻は、民家編と民俗編とによって構成され、民家編は日常生活の場である住居を取り上げ、市内にある「民家」を図面や写真で紹介したもので、当地域の特色や歴史的な意味を知ることができます。

また、民俗編は日常生活の中に受け継がれてきた風俗・習慣・行事・信仰といった文字に書き残されることの少ない私たち祖先の生活文化の伝統を、市内のお年寄りたちに聞き、あるいは記録を調べてまとめたもので、読みながらにして当時の暮らしの様子を知ることができます。



第三回配本

都留市史資料編「民家・民俗」

頒布価格　五五〇〇円

体裁　Ｂ５判　六八一頁

〈既刊本〉

第一回配本

都留市史資料編「地史・考古」

頒布価格　四五〇〇円

体裁　Ｂ５判　五五〇頁

第二回配本

都留市史資料編「都留郡村絵図村明細帳集」

頒布価格　六〇〇〇円

体裁　Ａ４判　絵図オールカラー印刷　四五〇頁

問合先

市史編纂室（文化会館内）

☎（43）１３２１

チャイムが変更になります

防災無線の夕方のチャイムが、十月一日より午後六時から五時に変更になります。

なお、これに合わせて曲目も「ゆうやけこやけ」から「家路」になります。